

合唱コンクールを終えて、**合唱が大好き！木村先生**（本校音楽科）にお話を伺いました。



歌が大好き ーご専門は。

「小・中学・高校と、ずーっと合唱をやっていて歌がとても大好きで学生時代は結構本格的にしていました。大学ではピアノを専攻しましたが、今も指導をするのが好きなので市の合同音楽会などに出ていましたね。」

ーどんな取組みをしたのですか。

「この学校は、三部合唱をするんです。ソプラノ・アルト・男声に分けて音とりから始めます。」

「とても時間がかかるので曲決めを含めて、6月から取り組んできました。」

ー具体的な指導は。

「はい、パートごとに分けては、しないですね。」「私は、ピアノの周りに集めて、はいアルト・はいソプラノと連続した流れで、感覚をつかませています。」

「そこから徐々に合わせながら強弱をつけたり、心を込めるために歌詞の意味等、それを理解しての歌い方を指導しています。」



合唱の話をするときつい笑みを浮かべる木村先生

ー9月に入ってからは、どうでしたか。

「ある程度歌えるようになってきたので、授業以外は、終わりの会 30 分間担任の先生にお願いしました。」

「今までは、CD だけの練習でしたが、私が順番に音楽室に集めて指導をさらに行いました。」「自分のクラスが十分に指導できなかつたのが少し残念でしたね。」

ーコンクールを終えていかがでしたか。

「そうですね、1 年生はやはり緊張していました。だけどやる気満々十分力を発揮したと思います。」

「特に男の子と綺麗にハモルことができたので女子は、よかったと思います。」

「2 年生は、全体のハモリがよかったと思います。だから甲乙つけがたい銅賞が二つも出たんでしょうね」

ー3 年生は、さすがでしたね。歌う前も発声練習とかして



「あれは、台本にはなかったのですが、昼食の後でもあり、T 田先生がやりますかと言われたので少し恥ずかしかったのですがやってしまいました。」「この学校に来て 2 年目で 3 年生を持つのが初めてで私自身も気合が入りました。」「選曲は別にして声量、男女のバランスどこをとっても言うことがない歌いっぱいでした。」

ー先生にとって合唱とは。

「やはり合唱の良いところは、ただ美しいハーモニーを追及するだけではないんですね。歌う仲間、今回でしたらクラスですよ。その仲間たちと気持ちが一つにならないと良い響きは生まれません。今、自分自身の表現が得意でない子も多く～だけど合唱をとおして自分たちになりクラスで貢献し互いを引っ張り合う姿もあったと思います。しっかり歌うこと、それがかっこよく思ってくれたら私は、とてもうれしいですね。」

ー最後に子どもたちへ一言

「このコンクールをとおして、クラス作りや仲間づくりに役立ったでしょうか。今日のみなさんたちの歌声を忘れずにこれから先の活動に活かして行ってくださいね」「今日は、本当にいい歌声を聴かせてくれてありがとうございました。」

